

【発行】大船渡仮設住宅支援事業

〒022-0004

岩手県大船渡市猪川町字長洞 62-1

大船渡仮設住宅支援事業事務局内

TEL : 0120-628-638

E-Mail : ofnt_otoiawase@yahoo.co.jp

Web : http://ofunatocity.jp

はまらい

大船渡仮設住宅 支援員新聞

No.18
2014.

1月号



▲ 住民の方々の交流の場です。足湯に入って心も身体もぽっかぽか

奥州市商工観光部商業観光課

商業振興係長

絆交流支援隊

千葉光輝さん

千葉信さん

田代勝利さん

あの人
にインタビュー足湯の交流から
「絆」が生まれる

各仮設住宅をまわり足湯を行ったり、月に一度の被災者リフレッシュツアーや被災地支援ツアーを行っている「奥州市絆交流支援事業」。ツアーはもちろんですが、足湯も住民の方からとても喜ばれています。今回はこの事業に携わる奥州市・商業振興係長の千葉さんと支援隊の千葉さん、田代さんにお話を伺いました。

Qささまざまな支援がある中でなぜ足湯を選んだのですか？

千葉係長…奥州市にはいくつか温泉があるので、震

災直後は被災者の方を奥州市の温泉に招待したんです。去年は毎日ワゴン車で送迎をしていました。今年はバスで温泉にお連れしようかと考えたんですけど、バスだと小さい仮設には入れなかったり、移動の足がなくて集合場所に来られない住民さんが出てくる。また片道1時間もあると高齢者の方には負担が掛かりますよね。じゃあどうしようかって考えたときに「こっちにお湯を持ってくればいいんだ！」ということになりました。足湯が始まり

目や手足の自由が 利かなくなったら…

支援員が高齢者
疑似体験

皆さんは身体が自由でなくなったり高年齢の方が、普段の生活でどんな苦労をされているかイメージできますか？

手足や視力が弱くなってきた高齢者の日常動作を疑似体験する事でその大変さに気づき、関わり方や暮らしやすい環境への改善に繋げてもらおうと、支援員の高齢者疑似体験が行われました。

ひじやひざの関節が曲がりにくくなるサポーターを巻き、手首、両足首に重りをつけて手足の動きを制限。目にはゴーグルを着用します。ゴーグルは白内障が重度に進んだ状態を想定し、レンズの部分が黄色くなっています。また高年齢になると視野も狭まりやすくなるため、ゴーグルの可視範囲も狭く、装着した人は不安を覚えます。この状態でゼッケンの紐を結びますが、視界が限られて見づらく手

探りで結ぶしかありません。支援員は「人の顔もぼんやりして、こんなに見えないの？」と驚いていました。

全ての装具をつけ、歩行の補助として杖をつきながら談話室内や外を歩きます。足が重くて持ち上げられず、膝が曲がらないため靴を履くのに苦労し、3段ほどの階段もどのように下りればいいのか戸惑っていました。このほか座って立ち上がる動作や車椅子の体験も行い、体の不自由な方がいかに大変かを身をもって実感しました。

装具を貸し出して下さった福祉の里の職員は、「皆さんは背中をまっすぐにして行いましたが、歳をとると背中也曲がり、今回のように白内障も加わると視界も限られ本当に怖いんです。またお年寄りは一歩を踏み出すのが遅く、不安定なので手伝おうとして手を引っ張ったり、後ろから押された



▲ 膝が曲がらないと階段はとて辛く、片足ずつでないと下りることができません。

住民の方々の心の温かさにふれる

Q活動を通して何を感じましたか？

千葉さん…震災があったにもかかわらず、明るく前向きに生活していらっしゃるなと思います。あとは人がいいように感じますね。気を遣ってコーヒーや栄養ドリンクを持ってきたり、くれる方もいるんですよ。本当に嬉しいし、ありがたいと思います。

田代さん…活動していく中で顔を見てお話をしてくれあえて、本当にこの事業の「絆交流」の名にふさわしい「絆」が生まれてきていると思います。

Q住民の方々に一言お願いします。

千葉さん…1人でも2人でも足湯に入りたいって言うってくれる人がいるなら呼んで欲しいですね。事業の

みんながそう思っていて活動しています。

あと、私は海が好きなのでよく大船渡に来るんですが、どこかで会ったときには気軽に声をかけてください。

田代さん…活動を通して奥州市に興味を持っていただき。そして「そういうえば奥州市の人たち来たなあ」って思い出してもらえると嬉しいです。



▲ 右から千葉さん、田代さん、千葉係長。女性2人は毎回来てくださる支援隊のメンバーです。お湯は前沢区の舞鶴の湯から運んで来られています

時などの怖さを理解して、むやみに手を貸さないという事にも気づけてほしい」と話しました。

体験をした支援員は、「心に余裕を持って、お年寄りの方をせかしてしまわないように気をつけた」「経験できてよかった。体力も無くなっていると本当に大変だと思う。普段の業務でも、その人にあった手助けをしていきたい」と話しました。

支援員ニュース おじゃましまーす

大船渡町 山馬越仮設団地

住民の方に 元気を頂きながら



▲ 写真を見ながら、住民の方が談笑します

今回は大船渡北小学校のグラウンドにある山馬越仮設団地です。支援員は男性1名、女性2名が常駐しています。

以前は編み物や手芸などのイベントが多かった山馬越団地。年配の方々がとても元気で、最近では体操や運動など、体を動かすことに興味を持つ方が多くなってきました。支援員はそんな要望に答え、体を動かすイベントを多く取り入れるようになりました。中でも昔懐かしい曲に合わせて、踊ったり体操したりするのはとても好評です。またイベント中は支援員が必ず写真を撮っておきます。後で大きく印刷して談

話室の壁に飾っておくと、住民の方々は自分がつけているのを見て、「ほら、あんだ写ってたぞ!」とお友達と一緒に喜ぶそうです。

「支援員さんによろしくね」

最近仮設住宅を出て行かれる方が増えてきました。住民の方から「災害公営住宅へ出て行った方、元気だったっけ。支援員さんによろしくねって言われたよ」と教えて頂く事もあります。支援員は「イベントや住民の方の対応で忙しい時もあるけど、こういう話があるとても嬉しく、またがんばろうという気持ちになる」と言います。



▲ 持っていった「はまらい」を早速仕分け中です

ストーブ火災にご用心

皆さんはストーブの誤った取扱いや不注意によって毎年火災が発生していることをご存知ですか？冬は空気が乾燥しやすい時期のため、長屋造りの仮設住宅で火災が発生すると近隣に燃え広がり、被害が拡大する危険性があります。今回はストーブ火災の予防のポイントをいくつか紹介します。

誤給油に注意

ガソリンを灯油と間違えてストーブに給油し、火災の原因になることがあります。誤給油を防ぐには、油の種類によって容器の色や形状を変えて保管することを勧めます。ガソリンは専用の携行缶で保管しましょう。ガソリンを灯油用ポリタンクで保管したり運搬に使用することは法律で禁止されています。

ていまずのでご注意ください。また、給油前に色を確認しましょう。ガソリンは法律により着色され、オレンジ色をしています。別の灯油は無色透明です。別の確認方法として、指先に付けて息を吹きかける方法があります。ガソリンはすぐに乾きますが、灯油はなかなか乾きません。

給油の際は電源を切る

給油する際、タンクの口金が完全に閉まっていなかったため、ストーブにセツトするときに口金はずれて漏れた灯油に引火したケースがありました。必ず電源を切ってから給油しましょう。また、給油の際にこぼれてしまった灯油はすぐにふき取

り、引火しないようにしましょう。
近くに燃えやすいものを置かない

ストーブの上部に干した洗濯物が落下し、ストーブと接触して燃え出すことがあります。ストーブのそばに洗濯物を干さないのはもちろんですが、近くにスプレー缶やゴミなどを置かないようにしましょう。壁やカーテンのそばで使用することも火災の原因につながります。火災の発生は未然に防ぐことができます。家族で協力し合い火災予防に取り組みましょう。



▲ 誤給油に気を付けましょう

今月のスマイル

みんなでコロコロ きびまんじゅう



▲ 昔はよくこうやって、団子を作ったのよ

12月4日、黒土田仮設団地では住民の方が集まって、「まちの保健室」主催のきびまんじゅう作りが行われま

に食べてもらうそうです。お揃いのマスクと青い手袋姿でコロコロ。さすが皆さん、手つきが伊達じやありません。

した。伺ってみると、すでにあんこを丸めているところ。話を聞くと、作ったまんじゅうは越喜来幼稚園へ持って行き、この日の3時のおやつ

せん。一口サイズに丸まったあんこがたくさん並びます。住民の方は15名ほど参加。きび粉を練ってあんこを包み、さつと茹でてきな粉を

まぶします。上手に包みながら、ワイワイ盛り上がりつつ作業が進みます。幼稚園に持っていく他に、自分たちで食べる分も作りますが「おらだち食うのはなんぼ作るのす?」「大きさが違うとケンカすからね!」などと皆さん大笑いしていました。講師の方が、昔と違いあずきを煮る方法が簡単になったこと、手粉をつけながら練るより水をつけながらの方がやりやすい、などと話すと、それぞれ「ほおー」と感心しながら聞いていました。最後はまんじゅうをかわいいい袋に入れて、できあがり。幼稚園にはまちの保健室の方がまんじゅうを届けたそうです。

おおふなとの記憶

1ピースはめらい

約3年ぶりに復活した、越喜来の冬の風物詩「ころも」メッセージも付けられ三陸駅のホームをオレンジ色のカーテンで飾りました。



編集後記

あけましておめでとうございます。とりたいところですが、この新聞は製作した翌月に発行するので今はまだ12月中旬。ということで、クリスマスも目前!!いくつかの仮設ではイルミネーションやツリーでキラキラと綺麗に飾られていました。今回取材した山馬越仮設団地のように、今までのイベントの写真など他の集会所や談話室でも飾られていますので、ぜひ見に足を運んでみてはいかがでしょうか?

そしてお正月まで残り半月ほど。年末ジャンボ当たっているかな。この新聞が発行されている頃には、結果が分かっているはず...高額当選したらファミリーカーを購入しようかと考えています(笑)夢で終わりませんように!今年一年本当にありがとうございました。2014年もよろしくお願いいたします。(K)

ご意見・ご感想は、こちらまで。
大船渡市猪川町字長洞 62-1
大船渡仮設住宅支援事業事務局内
TEL : 0120-628-638
E-Mail : ofnt_otoiawase@yahoo.co.jp